

第2章 タッチタイプ

- ✓ タッチタイプを習得する
- ✓ 外部記憶装置の使い方を知る

1. タッチタイプとは

キーボードを見ながら打つと、思考が分断されるため文章の作成能率が落ちる。また、自己流の打ち方は、長時間続けると筋肉疲労も多く、スピードも上がらない。

キーボードを見ないで、10本の指を正しく使って打つことを「タッチタイプ」という。本章での目標は、基準となるキーの位置(ホームポジション)から、他のキーまでの距離を指に覚えさせることにある。最初はキーを見なければ打てないが、練習することによって、速く、正確に、スムーズに打てるようになる。わずか十数時間でできるようになるから、疑わないで熱心に練習してほしい。

2. ホームポジション

指をキーボードのどの位置に置くのか、どのキーをどの指で押すのかは全部決まっている。独自の打ち方をしてはいけない。今からなら直せるので、直すべきである。



左手の人差し指がF、右手の人差し指がJとなる指の配置

ホームポジションとは、最初に10本の指をキーボードに置く位置のことである。左の小指がA、薬指がS、・・・という具合に決まっている。どんなキーを打った後でも、このホームポジションに指を戻すように意識して練習するのが上達への近道である。

3. タッチタイプの練習について

- 1回15分程度、1日1時間程度が適当である。
- 長く練習したからといって、急には身に付かない。あせらないで、毎日休まずに練習すると上達が早い。**毎日の積み重ねが大切**である。
- 練習は、速く打つことより、**正確に打つこと**を重視する。後のレッスンの進みが速くなる。
- **椅子の高さ**を調節しよう。背筋を伸ばして、ひじが直角になる程度が良い。
- タッチタイプが一定のレベルに達しても、そこでやめると戻ってしまう。毎日少しずつでもキーボードに触っているうちに、確実に上達し、キーボードを見なくても、自然に手が動くようになる。

4. タッチタイプのソフト TYPEQUICK を使って練習

練習者1人1人の練習状況を細かく分析し、既に学んだキー、得意なキー、不得意なキーを組み合わせ、それぞれの練習者に最適な練習コースが用意される。**1日1時間**、15日でマスターできる。

Lesson1から8がキーの入力練習、Lesson 9 と 10 はスピードと正確度の練習である。練習テキストは目標を達成しても止まらず表示されるので、目標を達成したら、各自で終了する。

初期設定

1. TYPEQUICK の製品パッケージには登録コードが入っている。
2. 基礎情報科学のトップページに「学習者登録 TYPEQUICK」のリンクがある。第1登録サイトへアクセスする。
3. Webmail を立ち上げてメールに書かれたリンク先をクリック。
4. 第2登録サイトが開くので必要事項記入。
5. もう一度 webmail を開けると、ログイン名と練習サイトの URL がわかる。
6. 「練習コース」の「**ローマ字コースキーボード練習(標準)**」を選択¹。
7. 「設定」の「全般」で語/分(WPM)を選択。目標スピード **30**。

¹ 本学で提供しているソフトは練習コースを一つしか選べない。一度登録すると、変更できない。